



CCS便り

NPO 法人 キャリア・カウンセラー札幌
令和 元年 8月 8日発行

会報 Vol .19

〒060-0052 札幌市中央区南2条東6丁目 2-1
B-205

TEL. 011-596-6242

FAX. 011-596-6267

E-mail ccs2012@vega.ocn.ne.jp

URL <http://www.ccsap.jp>

北海道浦河高等学校・キャリアカウンセリング研修会報告

去る7月24日、日高振興局所在地である浦河町の開校以来87年という歴史と伝統のある学校、北海道浦河高等学校に訪問して参りました。

訪問に至った経緯としては、私どもNPO キャリアカウンセラー札幌（CCS）に対し、同校の教職員の方々へ向けたキャリアカウンセリング研修を開催したいとの趣旨で、その実施ご依頼の連絡を頂いたことによるものでした。

訪問早々、吉瀬校長先生、北川教頭先生にご挨拶申し上げ、そして今回の研修会ご担当の佐藤キャリアガイダンス担当部長先生に会場へのご案内をいただきました。（なお、同校のホームページによると、平成30年度の進路状況の概要は進学56.1%、就職42.4%となっております。）

今回の研修内容は3項目の設定で用意しました。（所要時間：90分）

- ① キャリアカウンセリングの概要説明（プロジェクター使用）
- ② 研修者同士による傾聴無視の体験とその振り返り
- ③ キャリアカウンセリングのデモンストレーション
（キャリアカウンセリングの傾聴・受容などの基本的技法に加え、自己理解につながるCAN/WANT/MUSTの整理、気づきを促す要点を盛りこむ）

また、研修者からの質問には次のようなものがありました・・・

「キャリアカウンセリングを行うなかで、職業に関する知識の習得は行っていたほうが良いのか？」といったものでした。

そして研修終了後、校長先生始め、教職員の方々にご挨拶をして、退出させていただきました。

最後に、ご担当の佐藤先生から、今回の研修の一番の狙いは“進路指導に当たる先生方のキャリアカウンセリングが、経験や勘に頼ったものにならないために、改めてキャリアカウンセリングの基本を習得してもらうことでした”との趣旨をお聞きして、失礼してきました。



当日の熱心な受講の様態です。

浜松副理事長からの投稿です。

高校におけるキャリア教育推進の一環である キャリアカウンセリング研修に携わってみて・・・

日本において、公的の場に「キャリア教育」という言葉が初めて登場したのは平成11年頃のように、それは、世界的な規模での情報化、グローバル化といったことなどに加え、日本においては少子高齢化といった問題等に直面し始めたことがその背景にあったと言われています。

それから、20年余りが過ぎてすでに学校現場においては、様々な具体策が進行しているようですが、文部科学省・教育局では平成23年度に「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」がとりまとめられたとのこと。

その中では「社会人・職業人としての自立が迫られる時期である高等学校におけるキャリア教育の充実、喫緊の課題である」と述べられており、その後作成された関係者向けの『**高等学校キャリア教育の手引き**』のなかのキャリアカウンセリングに関する項目では、最初に【**個に応じたキャリアカウンセリングの充実**】ということが記されていました。

そこには、学年・クラスといった集団を対象とした<キャリアガイダンス>において、それがどのように生徒たちに伝わり、どんな変容をもたらしたのかを丁寧に確認するとしながらも、生徒たちが一人で明確に把握することは容易ではなく、次のステップの<キャリアカウンセリング>においてこそ、一人一人の生徒の中に起きたことを丁寧に確認できるようなサポートが望ましいと記されています。

以上のような、生徒たちに対する個別の支援・指導を充実させるためのキャリアカウンセリングの推進が求められる中での今回の研修は、大変に有意義であったと感じたところです。確かに、キャリアカウンセリングにおいては、カウンセリングの技法、キャリア発達、職業や産業社会等に関する専門的な知識、さらには本人の個性・適性に基づいた職業選択の知識・技法などが求められるものであり、キャリアカウンセリング資格を持った専門家を学校に

配置することも方法の一つであり、これを積極的に実施することは当然ながら有用であると考えられます。

ただ、今回の研修体験から感じたことは、おそらくは、教職員の先生方がキャリアカウンセリングに関する知識やスキルを身に付け、実践することも重要であるということでした。なぜなら、日々の授業、ホームルームや学校行事など教育活動のあらゆる場面で、生徒一人一人に接しているのは先生方であり、その迷いや悩みを受け止めたりなどその日々の接点からキャリアカウンセリングの継続性が保たれ、生徒と先生の間には前提としての親和・信頼関係を構築することが可能な状況にあると考えられるからです。

ですから、キャリアカウンセリングの技法、職業に関する専門知識などを教職員の先生方が身に付けることによって、生徒一人一人のそれぞれ異なる背景から生じた事象を正確に把握することができれば、より良い結果につながるように思います。

そしてそのためには、我々キャリアカウンセリング資格をする者は、直接、生徒たちの相談に応じるだけでなく、教職員の方々へのサポート役を担うことでも、その成果に大いに寄与できるのではないかと思います。

ぜひとも、我々キャリアカウンセラーの活用を願いたいものです。

さて、今回の北海道浦河高等学校の教職員の皆様を対象にしました、NPO キャリア・カウンセラー札幌の《キャリアカウンセリング研修》は先生方にいくらかでもお役に立てましたでしょうか。

改めまして、ご熱心に“傾聴”いただきました教職員先生の皆様、大変ありがとうございました。

NPO キャリアカウンセラー札幌
副理事長 浜松 敏明



平澤理事長による講話の様子。

(完)

編集後記。

新年度も始まってから、すでに4ヶ月が過ぎようとしています。今年度は新しい試みをする事と、既存の事業の見直しと再構築を目標に活動を進めてきました。このことは様々な形で実を結ぼうとしています。そして、これから下半期には更なる充実を図るべく行動を続けていきます。(M・H)